



INTERNATIONAL PROSECUTION SECTION

Doc. No. 2274

27 June 1946

ANALYSIS OF DOCUMENTARY EVIDENCE

DESCRIPTION OF ATTACHED DOCUMENT

Title and Nature: Transcript, Interrogation of MATSUI,  
Iwane

Date: 8 Mar 46 Original  Copy  Language: English

Has it been translated? Yes  No   
Has it been photostated? Yes  No

LOCATION OF ORIGINAL

Document Division

SOURCE OF ORIGINAL: IPS (See our Case File No. 61)

PERSONS IMPLICATED: MATSUI

CRIMES TO WHICH DOCUMENT APPLICABLE:

SUMMARY OF RELEVANT POINTS

Interrogation of MATSUI by Col. Merrow

Analyst: C.W.J. Phelps

Doc. No. 2274

INTERNATIONAL PROSECUTION SECTION

Doc. No. 2274

Date 27 June 46

ANALYSIS OF DOCUMENTARY EVIDENCE

DESCRIPTION OF ATTACHED DOCUMENT

Title and Nature: Transcript, Interrogation of  
MATSUI, Iwane

Date: 8 Mar 46 Original  Copy  Language: Eng

Has it been translated? Yes  No   
Has it been photostated? Yes  No

LOCATION OF ORIGINAL (also WITNESS if applicable)

Doc Div

SOURCE OF ORIGINAL: I.P.S. (see our Case File # 61)

PERSONS IMPLICATED:

MATSUI

CRIMES TO WHICH DOCUMENT APPLICABLE:

SUMMARY OF RELEVANT POINTS (with page references):

Interrogation of MATSUI by Col.  
Morrow

Analyst: CW Phelps

Doc. No.

INTERNATIONAL PROSECUTION SECTION

Doc. No. 2274

27 June 1946

ANALYSIS OF DOCUMENTARY EVIDENCE

DESCRIPTION OF ATTACHED DOCUMENT

Title and Nature: Transcript, Interrogation of MATSUI  
Iwane

Date: 8 Mar 46 Original  Copy  Language: English

Has it been translated? Yes  No   
Has it been photostated? Yes  No

LOCATION OF ORIGINAL

Document Division

SOURCE OF ORIGINAL: IPS (See our Case File No. 61)

PERSONS IMPLICATED: MATSUI

CRIES TO WHICH DOCUMENT APPLICABLE:

SUMMARY OF RELEVANT POINTS

Interrogation of MATSUI by Col. Morrow

Analyst: C.W.J. Phelps

Doc. No. 2274

10101-1

EXHIBIT NO. 257

問、貴下ノ軍隊ガ南京ニ於テ幾多ノ暴虐行爲ヲナシタト云。米ガ考ヘテキルトイフ事ヲ貴下ガ聽イタトスレバ最初ニ聽イタノハ何時デスカ。

答、自分ガ南京入城ヲスルト殆ド同時デス。

問、貴下ガ夫ニ就テ聽イタノデスカ。

答、左様デス。

問、如何ナル筋カラ夫ヲ聽イタノデスカ。

答、日本ノ外交官カラデス。

問、其ノ日本人外交官トイフノハ誰デスカ。

答、夫ハ極ク下ツ端ノ外交官デ、自分ハソノ名前ヲ記憶シテキマセンガ、南京駐在領事デス。

問、デハ、日本軍ガ南京へ接近シタ時、日本領事ハ南京ニ居ツタト了解スルガ。

答、領事等ハ日本軍ト共ニ入城シタノデス。彼等ハ入城ト共ニ治安維持ニ當ル爲、軍ニ隨行サセラレタノデシタ。

問、「ヴァイナツク」トイフ人が嘗イタ「現代極東史」ト云フノガアルガ、同氏ハ其ノ中デ、一般支那人ガ總テ東ニ結ヘラレタリ、機關銃ヲ別帶サレタリシ、又婦人ハ日本兵用ニ淫褻屋ニ入レラレタト云ツテ居リ、又多數ノ一般人ガ銃創ヲ刺サレタト言ツテキル。貴下ハ此ノ

歴史家ガ何處ニ情報ヲ入手シタカ知ツテキ

RETURN TO ROOM 361

マスカ。

答、私ハ存ジマセン。多分支那獨カラト思ヒマス。  
問、貴下ガ南京入城ヲシタ時、此ノ種ノ話ヲ聽キ  
マシタカ。

答、否。

問、當方ノ記録ニ依レバ、貴下ハ外國ノ行政權ヲ  
否定スル公式發言ヲナシテキマス。余ハ指摘  
ハシナイガ、貴下ハ何カ聲明ヲシタノデスカ。

答。自分ハ調停ヲ拒絕シ又ハ行政權ヲ否定シタコ  
トハアリマセン。事實私ハ上海及南京ニ於テ  
ハ支那避難民救助ノ爲米・英・佛ノ外交官及  
領事等ト協力シタノデス。此ノ爲メノ仕事ニ從  
事シテ居ツタ佛蘭西人宣教師ガ自分ニ救護ヲ  
求メマシタノデ、自分ハソノ仕事ニ對シ一萬  
圓ヲ與ヘテ居リマス。

問、貴下ハ其ノ人ノ名前ヲ覺エテキマスカ。

答、今、記憶シテキマセンガ、思ヒ出シテ見マセ  
ウ。

問、夫ハ一九三二年（昭和七年）デシタカ一九三  
七年（昭和十二年）デシタカ。

答、一九三七年（昭和十二年）デシタ。

問、南京ノ此ノ情勢ノ爲貴下ハ司令官ノ職ヲ免ゼ  
ラレ二月原大將ト交代シタトイフ文書ガ又此

處ニアルガ。其ノ通りデスカ。

答、否、夫ハ理由トハナラナイ。自分ノ仕事ハ南京デ終了シタト考ヘ、制服ヲ脱イデ平和的業務ニ携サハルコトヲ望ンダノデシタ。

問、貴下ハ一萬回ヲ貴下個人ノ資金カラ佛人宣教師ニ與ヘタト云ハレルノデスカ、ソレトモ夫ハ貴方自身ハ勿論ダガ、日本軍又ハ日本ノ民間人カラ徴收シタモノデスカ。

答、夫ハ軍ノ資金デシタ。

問、夫ハ上海周邊ノ支那避難民ノ救済用ダツタノデスカ。

答、其ノ通りデス。

問、貴下ハ一九三八年（昭和十三年）司令官ノ職ヲ交代スル様稟請シタト考ヘテヨイデスネ。

答、左様デス。當方ノ願ニ依リデス。

問、其ノ請求ハ參謀總長ニ宛テノデスネ。

答、陸軍大臣杉山大將宛デス。

問、夫ハ文書デシタノデスカ。

答、書簡デデス。

問、夫ハ私書カソレトモ公文書デシタカ。

答、半バ私的、半バ公的デシタ。

問、貴下ガ交代スルト同時ニ橋本欽五郎及ビ朝香宮鳩彦王並ニ約八十名ノ參謀將校ガ日本へ歸

選サレタト「アーベント」氏ハ述ベテキル。  
貴下ハ夫ニ關シテ記憶ガアリマスカ、又夫ハ  
本當デスカ。

答、左様デス。乍然「アーベント」氏ノ推定ハ誤  
デシタ。前記二名ノ將校ト八十名ノ參謀將校  
ノ歸還理由ハ、在南京ノ十個師團ガ約五個師  
團ニ滅ゼラレ、其ノ結果之等將校ガ冗員トナ  
ツタ爲デシタ。南京ニハ二ツノ軍司令部ガア  
リ、之ガ一ツニ滅ゼラレタノデス。

問、北支カラ來タ軍トソレカラ上海ニ在ツタ軍ト  
ガアツテ、夫ガ貴下ノ麾下ニ入ツタノダト思  
ヒマスカサウデスカ。

答、此ハ自分ガ日本へ歸還ノ後デシタ。

問、上海作戰ト南京占領ノ間ニハ、例ヘバ多分北  
支カラ來タト思フガ第十軍ノ一部ヲ成ス谷將  
軍麾下ノ第六師團ノ様ナ軍隊ガ若干アツタト  
思フ。サウデスカ。

答、夫ハ上海カラ來タノデス。

問、第六師團ハ貴下ガ南京入城前、貴下ノ麾下ニ  
入り、ソレカラ第十軍ガ入ツタノダト思フガ。  
答、ハイ、其ノ通りデス。

問、南京占領軍ノ軍紀ハ非常ニ悪カツタトイフ責  
任ガ又問ハレテキル。



答、自分ハ軍紀ハ優秀デアツタト思フガ、行動ハ  
然ラズト思ヒマシタ。

問、兵ニ就テカ。

答、サウデス。

問、夫ハ南京ニ於テデシタネ。

答、サウデス。自分ハ軍ノ中ニ若干不埒ナ分子ガ  
居ツタト思ヒマス。

問、然ラバ貴下ハ、戰鬥行動間兵ガ命令ヲ遵守ス  
ル事ト兵ノ勤務下番中、本件ニ於テハ南京占  
領後ノ兵ノ行動トノ間ニ區別ヲナシテキルト  
思フガ如何。

答、サウデス。

問、所デ、在南京部隊ヲ指揮スル將校ハ、勿論勤  
務上番下番兩方ノ場合ノ兵ノ行動ヲ監督スル  
義務ガアツタ譯デセウ。

答、サウデス。

問、兵ノ行動ガ悪カツタトイフ見解ヲ何故貴下ハ  
口ニスルノデスカ、貴下ハ何ニ基イテ斯カル  
陳述ヲスルノデスカ。

答、文部民衆ニ對スル兵ノ行爲ト一般行動カラデ  
ス。

問、貴下司令部ヨリ南京占領ニ先立チ一般命令ヲ  
出シマシタカ。豫期セラレタル如キ南京占領



ソシテ經驗アル將校ノ統率スルモノデアツタ  
ノデスカ、ツレトモサウデハナカツタノデス  
カ。

答、部隊ハ凡テ經驗アル者ノ指揮スル經驗アル部  
隊デシタ。

問、貴下ハ之等部隊ヲ會ツテ指揮シタコトガアリ  
マシタカ。

答、否。

問、貴下ハ之等軍隊ガ其ノ時迄支那ニ於テ勤務下  
番中惡イ行動ヲナシタトイフコトヲ聽イタコ  
トガアリマシタカ。

答、否。此ノ軍ハ日本カラ來タ新編成部隊デシタ  
ガ、多クノ經驗アル老練兵デ編成サレテ居マ  
シタ。之等ノ部隊ガ支那ノ何所デデモ非道ナ  
行動ヲトツタトハ聽キマセンデシタ。

問、然ラバ滿洲デハ。

答、否。

問、部隊ノ一部ハ上海周邊ノ作戰ニ參加シテ居リ、  
又北支カラ來タ部隊ハ北平天津周邊デ前哨戰  
ニ參加シテ居ツタトイフガ、其ノ通りデスカ。  
答、一個師團ハ北平、天津地區カラ來マシタ。

問、朝香中將官ハ最初ニ南京入城ヲシタ軍ノ一部  
ヲ監督スベキ野戰指揮官デアツタト言ハレテ

キル。朝香宮ガ斯カル位置ニ在ツタコトハ本  
當デスカ。

答、サウデス。夫ハ本當デス。

問、デ、朝香宮ハ明治天皇ノ息女ト結婚ナサレテ  
キルノデスネ。

答、ハイ、其ノ通りデス。

問、朝香宮ハ南京事件ニ對シ重大責任ガアルガ、  
皇族關係ノ爲、殆ドト云フカ、全然ト云フカ、  
夫ニ就テ彼是言ハレナカツタノダト言フ人ガ  
アルガ、サウカネ。

答、否、自分ハサウハ思ヒマセン。朝香宮ハ南京  
入城ノ僅カ十日前ニ部隊ニ入ラレタノデアツ  
テ、本部隊ニ關係シテカラ短時日デアツタノ  
ニ儘ミテ、自分ハ朝香宮ガ責任ガアルトハ思  
ヒマセン。師團長ガ責任ノ當事者デアルト自  
分ハ言ヒタイデス。

。。。。。。。。。。

問、貴下ハ十七日ニ南京入城ラシタト陳述シテキ  
ルガ、貴下ハ一般人ナリ、婦人ナリ、子供ナ  
リノ死骸ヲ見マシタカ。何カ其ノ穢ナモノヲ。  
答、夫等ノモノハ入城迄ニ全部片付ケラレテアリ  
マシタ。自分ハ西門附近デ二三ノ支那兵ノ死  
骸ヲ見マシタ。

問、數十萬人ノ非戦闘員ガ殺害サレ、十三日ノ占領直後南京ハ火災ト掠奪ニ逢ツタト、支那戰爭犯罪調査委員會ハ言ツテキル。貴下ノ陳述以外ニ南京ガ占領ニ際シ、酷イ處置ヲ受ケタトイフ證據ガ他ニ何カアリマシタカ。

答、夫ハ絶對ニ間違ツテキマス。斯カル罪狀ニ對スル理由ハ絶對ニアリマセン。自分ハ名譽ニ誓ツテ之ヲ陳述スルコトガ出來マス。

。。。。。。。。。。

問、南京占領後最初ニ「ハレツト・アーベント」ニ逢ツタノハ何時カ。

答、自分ハ支那デ彼ニ逢ヒマシタ。自分ハ南京入城多分一ヶ月後ニ初メテ「アーベント」氏ニ逢ツタト思ヒマス。

問、「アーベント」氏ガ會見ヲ申込デ會見シタノデスカ。

答、否、自分ハ風評ヲ聽イテ居リ、又「アーベント」氏ノ前デ事實ヲ述べ風評ヲ打消シタイト思ヒマシタノデ、當方カラ會見ヲ求メマシタ。

問、貴下ト「アーベント」氏ハ何ニ就テ語り又何ヲ話シマシタカ。

答、自分ハ南京ニ於ケル外國權益ノ尊重ニ關スル自分ノ見解ヲ「アーベント」氏ニ説明シマシ

タ。又中立國ノ財産利益ニ損害ヲ及ボサヌト  
 イフ自分ノ希望ヲ説明シマシタ。尙自分ハ平  
 和ヲ達成シ、又戰鬥ヲ中止シタ支那軍ニ對シ  
 テハ友情ノ手ヲ差延ベルコトガ、自分ノ希望  
 デアルガ、抗戰ヲ繼續スル支那軍ヲ磨懲スル  
 コトハ自分ノ義務デアルコトヲ述べマシタ。

。。。。。。。。。。

問、二月貴下ガ日本へ歸還シテ後、參謀總長ナリ、  
 陸軍大臣ナリ又ハ其他ノ者ナリカラ、南京ニ  
 於ル貴下部隊ノ行動ニ關スル報告ヲ要求サレ  
 マシタカ。

答、自分ハ東京へ歸還後直チニ豫備役ニ編入セラ  
 レタノデ、シツカリシタ事ハ分リマセンガ、  
 調査ヤ報告ガアツタニ違ヒナイト思ヒマス。

問、貴下ハ南京ニ於ル部隊ノ行動ニ關スル此ノ風  
 評ニ付報告ヲ要求セラレ又ハ訊問セラレマシ  
 タカ。

答、否、自分ハ報告ヲスルコトハ要求セラレマセ  
 ンデシタ。万一斯カル事件ガ苟モアツタナラ、  
 自分ハ自分ノ責任ニ於テ當然報告ヲナシタコ  
 トデセウ。若シ貴下ガ報告書ヲ求メルナラ夫  
 ハ復員局ニアル筈デス。

。。。。。。。。。。

問、貴下ハ一九三六年（昭和十一年）及ビ一九三七年（昭和十二年）中ノ南京及ビ上海ニ於ケル貴下ノ行動ヲ示ス書類、書簡若クハ日記ヲ持ツテキマスカ。

答、自分ノ日記帳ノ唯一ノ記録ハ南京ニ於ル支那人強姦ニ關スル一名ノ將校ト多分三名ノ兵ノ軍法會議ニ關スルモノデス。

問、日時ハ何時デシタカ、又軍法會議ノ判決ハ如何デシタカ。

答、將校ハ死刑ニ處セラレ、兵ハ投獄サレタト思ヒマス。之ハ自分が犯罪者ニ對シ懷疑ナル懲罰ヲ主張シタ結果デス。

自分ハ上海ニ居タ當時、本件ノ報告ニ接シ、其處デ日記ニ記載シタモノデス。

問、貴下ハ其ノ寫ヲ營方ニ下サルコトが出来ルデセウネ。營方ノ爲ニ入手シテモラヘマスカ。

答、此ノ日記ヲ始メ自分ノ記録ハ全部焼ケテシマヒマシタガ、自分ハ裁判ニ附セラル、場合、彼ニ立ツダラウト思ツテ其ノ後ノ記憶ヲ辿ツテ作ツタ記録ガ多少アリマス。自分ノ家ハ爆撃ノ爲焼ケタノデス。

問、夫ハ何時デシタカ。

答、八月二十六日。